

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100044		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大垣木戸 (1F)		
所在地	岐阜県大垣市木戸町306-1		
自己評価作成日	令和6年8月10日	評価結果市町村受理日	令和6年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2192100044-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和6年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは広い駐車場と中庭がありますので、散歩に出て頂く事で気分転換を図って頂いています。また中庭には畑、花畑がありますので、お花や畑の作物により季節を感じて頂くことが出来ます。自宅で畑仕事をされていたご利用者様もおられ、そういった方に対しては畑が良い刺激となっている様です。ご自分が作っていたお野菜やお花に関してのお話が弾みます。また花植え等手伝って頂く事もあります。ホームの畑で春はいちごがり、秋にはさつまいもが出来ます。ホームの敷地内ですので移動が不要、お身体が不自由になられたご利用者様にも参加して頂く事が出来ます。ホーム内での生活の中に楽しみがあるよう月に2回はおやつレクを行っており、ご利用者様に好評です。ご家族様にはこれまでのように気軽にホームに足を運んで頂く事が出来ませんので毎月のお便りや通信を通じてご利用者様のご様子をお伝えしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺に新しく若い世帯の住宅が増え、公園等で子ども連れの家族と交流を持つ機会が増えていく。地域でのグループホームや認知症理解が深まるように、戸外に出る機会を設け、職員・利用者・地域住民が交流できるように積極的に取り組んでいる。
ホームでは、職員の育成に向けた前向きな取組みがある。職員のスキル向上が、利用者へ提供する支援の質を高めるために必要であることを理解し、法人が作成した資料・動画を活用した研修や勉強会を行い、日々の業務の中でのOJTに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的な散歩により地域の方との交流をはかっている。出来る限り多くの地域資源を活用したいと考えている。	職員が常に意識できるように理念をホーム内に掲示し、入職時には研修で理解を深めている。勉強会やホーム会議等、機会ある毎に周知する時間を設け、日常の支援につなげる取組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	木戸町自治会に加入している。日々の散歩の際積極艇に挨拶をする事で地域の方との交流を心掛けている。宝和町にあるお寺での行事に参加をしている。	ホーム周辺を散歩し、公園では若い世代の地域住民と交流する機会が増えている。近隣の喫茶店やドラッグストアに出かけたり、お寺の行事にも参加し、地域とのつながりを持って生活している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での会議を行っているが、参加者が少人数で意見もわずかではある。書面での意見書も頂いているため、両方の意見を元にサービス向上に活かしている。	対面での会議を再開している。案内はしているものの、地域の代表者や家族の参加は少ない。書面での意見も含め、会議の内容をサービス向上に活かしている。	運営推進会議開催の曜日への配慮や、ホームの行事に併せて行なう等、日程を工夫する事で、会議への参加者が増えていくことに期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を取っている。GH協議会等から届く研修や講座の案内を事務所に掲示、希望者は参加出来るようにしている。	行政担当部署とは良好な関係を築いており、随時にホームでの取組みを伝えている。グループホーム協議会等からは研修の案内があり、職員が参加できるように環境を整えている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には必ず身体拘束等に関する研修を受けている。また、年に数回全スタッフを対象として身体拘束、虐待に関しての研修を行っている。身体拘束、虐待に関してHL、UL、CMで定期的に話し合いの場を設け議事録を作成、全スタッフに開示、周知している。	身体拘束廃止に関する指針を定め、委員会を開催している。ホーム全体で勉強会や研修を実施し、身体拘束に対する理解を深めている。不適切ケアチェックシートを用い、自らを振り返る機会を設けている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	問題だと感じる言動があればその場でスタッフがお互いに注意するよう常日頃よりHLから指導がある。またHLが日常的に現場に出ている為、その際に気になる点など確認、注意している。	虐待防止のための指針を定め、委員会を開催している。職員間で声を掛け合い、どんな事が虐待にあたるのか、理由を考えながら話し合い、検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的にホーム会議にて研修を行っている。全スタッフ対象。研修後レポート作成をして頂く事で再度考える機会を持って頂けるようにしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主としてHLが行っている。ホーム見学や面会時に疑問点等あればその都度伺い、納得して頂けるまで説明をしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主にHLが行っている。ケアプランに関してはご利用者様のご意向と同時にご家族様のご意向も伺うようにしている。伺ったご意向は出来る限りケアプランに反映するようにしている。	家族に対して運営に関するアンケートを定期的実施している。アンケートやおたよりはWebで配信しているため、家族からの回答が少なくなった。面会時や行事への参加時に家族から意見や要望を聞き取り、運営に反映する体制がある。	Webでのアンケートは、利用できない家族がまだまだ多いためか回答率が少ない。回答率を上げていくための今後の取り組みに期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見や提案は都度話を聞き、状況に応じて対応していると思う。	管理者と職員は日常的に話ができる環境にある。年に1回の職員アンケート実施、法人相談窓口設置等、職員からの意見や提案を聞く機会を設け、運営等に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	HLはご利用者様、スタッフの状態に合わせて常に業務の見直しや改善をする事でご利用者様にとって過ごしやすい、スタッフにとって働きやすい環境作りをするように、と話されている。	職員が適切に休暇や休憩を取れるように、日々の業務内容を確認し、見直し・改善を図っている。円滑に業務が回るように管理する事で残業も減っている。管理者は職員の様子を把握し、声を掛け、話を聞くようにしている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格習得に関して本人の職歴ややる気に応じて声掛けをして下さる。エリア内での研修があり、順に参加している。	職員は、同じエリアでの合同研修や、動画・資料を用いた施設内研修に積極的に参加している。法人が業務に関する資格取得支援も行う等、職員のスキルアップのための仕組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ZOOMではあるがエリア内で合同の研修があり、ある程度の交流はあるかと思われる。徐々に対面での会議、研修等もあり参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てスタッフが行うのではなく個々の能力に合わせて出来る部分はご自分で行って頂けるよう個別に声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの更新時を主としてご本人様、ご家族様の希望を伺うようにしている。またお話が難しいご利用者様に関してはアセスメントや日々の関わりの中から希望をされている事を考えるようにしている。	利用者一人ひとりの言葉や日々の様子から、思いや暮らしの意向、希望などを汲み取っている。家族の面会時には意向を聞き取り、本人本位の支援につなげている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主にケアプランの更新時にユニット会議にて現状、今後についての話し合いを行っている。またご利用者様の状態に大きな変化等あった際にも話し合いの場を設けている。ご家族様にもケアプラン更新時や面会時にお話を伺っている。	個人記録や、家族・関係者の意見を聞き取り、ユニット会議で支援内容を検討している。計画変更のタイミングには、面会時や電話で家族の意見を聞き、本人の現状に即した介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ各々に得意不得意はあるが、全スタッフが日々の様子、気なる事などを出来る限り詳細に記録に残すよう努めている。記録を通じて情報共有、共通認識が出来ていると考える。	日々の記録は、業務によって紙とICTを使い分けている。特に共有が必要な記録は文字の色を変えて記入し、わかりやすくする工夫もある。利用者個々の適切な記録をもとに、業務が遂行できている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な条件があり実行が難しい事もあるが出来る限り柔軟に対応したいとは思っている。	入院や通院の送迎、通院の同行など、家族の対応が困難な時には、個々のニーズに合わせ、ホームが柔軟に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為に以前に比べると地域資源の活用が難しい場面が多いが、出来る限り希望や状態に応じて地域との関わりを持ち、豊かな生活が出来るよう努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、おおくま内科クリニックよりおおくま先生が往診に来て下さる。ご家族様からのご希望があれば先生とお話をする事、往診への立ち合いも可能。また体調面で先生が気になる事があれば先生からご家族様へのご連絡もある。	協力医の月2回の往診を支援している。希望により他の病院への受診も可能である。現在は、協力医が利用者全員のかかりつけ医となっている。必要があれば、直接医師から家族への説明もあり、家族の安心感に繋がっている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、HL、看護師が主となり先方との情報交換をしている。看護師より主治医であるおおくま先生との連携もなされている。	入院時は病院と情報交換し、退院前にはカンファレンスに参加している。診療情報提供書で施設職員との情報を共有し、適切に退院後の受け入れができるように準備をしている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に一通りHLよりご家族様にお話をしている。ご利用者様の状態に変化が生じた場合、出来る限り速やかにご家族様にご報告、今後についてのご希望を伺うようにしている。その際ホームで出来る事、出来ない事等について再度お伝えしている。	入居時には家族に終末期支援に関わるホームの指針を説明し、同意を得ている。状態変化が生じた場合は、その都度、家族に意向を確認して方針を決定している。看護師は、重度化や終末期ケアについての研修を受け、職員への水平展開を図っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にホーム内で研修を行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に研修、避難訓練を行っている。	BCPを整備し、定期的に避難訓練を実施しながら、利用者の誘導方法を職員間で話し合い、周知している。停電に備えてポータブルバッテリーやソーラーパネルの準備もあり、操作確認もできている。災害備蓄についても想定できる限りの万全を期している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関しては定期的に研修を行っている。言葉がけに関しては不適切なものではないか定期的に振り返りを行っている。	人権やプライバシー保護、接遇等については定期的に研修を行い、利用者尊重を職員一人ひとりが理解できるように指導している。また、認知症を理解し、丁寧な介護を心掛け、日常支援に当たっている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り希望を引き出すことが出来るよう心掛けている。お話が難しいご利用者様に関しては質問を選択形式にする等している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他利用者様との兼ね合いもあり全てを叶えることは難しいが出来る限り希望に沿う事が出来るよう意識はしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自分でエプロンをつけて頂く、配膳をして頂くなど能力に応じて行って頂いている。	法人が作成したメニューを活用し、食事はホーム内で調理している。季節や行事に因んだメニューは、利用者の楽しみとなっている。食器洗いや食器拭きの役割に熱心に取り組む利用者がおられ、ADLの維持にも繋がっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が苦手なご利用者様に対しては寒天ゼリーを提供し無理なく水分を摂取して頂く、食べやすい形状(一口大の刻み、極刻みなど)で提供するなどしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて歯磨きの声掛け、一部介助、全介助と対応を変え、能力を生かしながら口腔内の清潔保持に努めている。ご家族様の希望によるが定期的な歯科往診もあり。	食後には全員歯磨きをし、義歯は寝る前にホームで預かり、職員が洗浄している。歯科往診も支援し、口腔内の急なトラブルにも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	通常の排泄パターンの把握に加えて記録を活用し、トイレ誘導や声掛けを行っている。またご利用者様の状態変化に応じて使用するパット類の見直しを行う事で無駄に使用しないようにしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限り希望を伺うようにはしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様のその時々状態に応じて休んで頂くようにしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	委員会を設けており、毎月のホーム会議にて薬の変更や注意点などに関する周知を行っている。場合により看護師より説明あり。	薬は鍵のかかるボックスで保管している。内服時は誤薬防止のため、氏名と薬情で確認し、職員2名でチェックをしている。服薬変更時は申し送りノートに記入し、全職員で情報共有を行っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて役割を持って頂いたり、塗り絵等の趣味活動を行って頂けるようにしている。	生活歴から利用者の好きな事や習慣を把握し、できる範囲で役割を持ってもらい、やりがいを支援している。季節の行事やリハビリ体操への参加、敷地内の畑での野菜作り等、楽しみな時間となっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援委員会を設け出来る限りの希望を叶えるよう努めてきたが、現在はコロナ禍の為外出を控えて頂いている状況。	一人ひとりの希望を実現するため、個別支援委員会を設けている。現在はコロナ感染に不安があり、ユニット毎の長時間及び遠方への外出は行っていない。気分転換のために近隣への散歩や買い物、喫茶店、敷地内の畑に出るなど、屋外へ出る機会を作っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで現金のお預かりをしていない。入居時にご希望のある利用者には所持して頂く事もある。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば都度お電話可能。月に1回程度娘様にお手紙を書いて頂いているご利用者様がいらっしゃる。ご本人様の希望であり、ケアプランにも記載してある。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境美化委員会を設け、快適な環境作りに努めている。また畑、お花委員会を設け、お花や野菜により季節を感じて頂けるようにしている。フロア内でも季節が分かるよう、季節に応じた飾り物をしている。	共有空間の掃除や換気は職員が行い、清潔保持と感染症の感染防止に努めている。フロア内や通路の壁面には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品、写真を掲示する等の取組みを行っている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の相性を考慮し話がしやすいようなお席にしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム作り付けではなく家から家具を持ってきて頂いている為使い慣れた物となっているのではないかと。仏様の壁掛けのようなものを持ち込まれている方もいる。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りに赤いテープを貼り手をつく所が分かり易いようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100044		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大垣木戸 (2F)		
所在地	岐阜県大垣市木戸町306-1		
自己評価作成日	令和6年8月10日	評価結果市町村受理日	令和6年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192100044-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和6年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは広い駐車場と中庭がありますので、散歩に出て頂く事で気分転換を図って頂いています。また中庭には畑、花畑がありますので、お花や畑の作物により季節を感じて頂くことが出来ます。自宅で畑仕事をされていたご利用者様もおられ、そういった方に対しては畑が良い刺激となっている様です。ご自分が作っていたお野菜やお花に關してのお話が弾みます。また花植え等手伝って頂く事もあります。ホームの畑で春はいちごが、秋にはさつま芋ほりが出来ます。ホームの敷地内ですので移動が不要、お身体が不自由になられたご利用者様にも参加して頂く事が出来ます。ホーム内での生活の中に楽しみがあるよう月に2回はおやつレクを行っており、ご利用者様に好評です。ご家族様にはこれまでのように気軽にホームに足を運んで頂く事が出来ませんので毎月のお便りや通信を通じてご利用者様のご様子をお伝えしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的な散歩により地域の方との交流をはかっている。出来る限り多くの地域資源を活用したいと考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	木戸町自治会に加入している。日々の散歩の際積極艇に挨拶をする事で地域の方との交流を心掛けている。宝和町にあるお寺での行事に参加をしている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での会議を行っているが、参加者が少人数で意見もわずかではある。書面での意見書も頂いているため、両方の意見を元にサービス向上に活かしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を取っている。GH協議会等から届く研修や講座の案内を事務所に掲示、希望者は参加出来るようにしている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には必ず身体拘束等に関する研修を受けている。また、年に数回全スタッフを対象として身体拘束、虐待に関しての研修を行っている。身体拘束、虐待に関してHL、UL、CMで定期的に話し合いの場を設け議事録を作成、全スタッフに開示、周知している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	問題だと感じる言動があればその場でスタッフがお互いに注意するよう常日頃よりHLから指導がある。またHLが日常的に現場に出ている為、その際に気になる点など確認、注意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的にホーム会議にて研修を行っている。全スタッフ対象。研修後レポート作成をして頂く事で再度考える機会を持って頂けるようにしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主としてHLが行っている。ホーム見学や面会時に疑問点等あればその都度伺い、納得して頂けるまで説明をしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主にHLが行っている。ケアプランに関してはご利用者様のご意向と同時にご家族様のご意向も伺うようにしている。伺ったご意向は出来る限りケアプランに反映するようにしている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見や提案は都度話を聞き、状況に応じて対応していると思う。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	HLはご利用者様、スタッフの状態に合わせて常に業務の見直しや改善をする事でご利用者様にとって過ごしやすい、スタッフにとって働きやすい環境作りをするように、と話されている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格習得に関して本人の職歴ややる気に応じて声掛けをして下さる。エリア内での研修があり、順に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ZOOMではあるがエリア内で合同の研修があり、ある程度の交流はあると思われる。徐々に対面での会議、研修等もあり参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てスタッフが行うのではなく個々の能力に合わせて出来る部分はお自分で行って頂けるよう個別に声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの更新時を主としてご本人様、ご家族様の希望を伺うようにしている。またお話が難しいご利用者様に関してはアセスメントや日々の関わりの中から希望をされている事を考えるようにしている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主にケアプランの更新時にユニット会議にて現状、今後についての話し合いを行っている。またご利用者様の状態に大きな変化等あった際にも話し合いの場を設けている。ご家族様にもケアプラン更新時や面会時にお話を伺っている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ各々に得意不得意はあるが、全スタッフが日々の様子、気なる事などを出来る限り詳細に記録に残すよう努めている。記録を通じて情報共有、共通認識が出来ていると考える。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な条件があり実行が難しい事もあるが出来る限り柔軟に対応したいとは思っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為以前に比べると地域資源の活用が難しい場面が多いが、出来る限り希望や状態に応じて地域との関わりを持ち、豊かな生活が出来るよう努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、おおくま内科クリニックよりおおくま先生が往診に来て下さる。ご家族様からのご希望があれば先生とお話をする事、往診への立ち合いも可能。また体調面で先生が気になる事があれば先生からご家族様へのご連絡もある。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、HL、看護師が主となり先方との情報交換をしている。看護師より主治医であるおおくま先生との連携もなされている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に一通りHLよりご家族様にお話をしている。ご利用者様の状態に変化が生じた場合、出来る限り速やかにご家族様にご報告、今後についてのご希望を伺うようにしている。その際ホームで出来る事、出来ない事等について再度お伝えしている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にホーム内で研修を行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に研修、避難訓練を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関しては定期的に研修を行っている。言葉がけに関しては不適切なものでないか定期的に振り返りを行っている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り希望を引き出すことが出来るよう心掛けている。お話が難しいご利用者様に関しては質問を選択形式にする等している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他利用者様との兼ね合いもあり全てを叶えることは難しいが出来る限り希望に沿う事が出来るよう意識はしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自分でエプロンをつけて頂く、配膳をして頂くなど能力に応じて行っている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が苦手なご利用者様に対しては寒天ゼリーを提供し無理なく水分を摂取して頂く、食べやすい形状(一口大の刻み、極刻みなど)で提供するなどしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて歯磨きの声掛け、一部介助、全介助と対応を変え、能力を生かしながら口腔内の清潔保持に努めている。ご家族様の希望によるが定期的な歯科往診もあり。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	通常の排泄パターンの把握に加えて記録を活用し、トイレ誘導や声掛けを行っている。またご利用者様の状態変化に応じて使用するパット類の見直しを行う事で無駄に使用しないようにしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限り希望を伺うようにはしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様のその時々状況に応じて休んで頂くようにしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	委員会を設けており、毎月のホーム会議にて薬の変更や注意点などに関する周知を行っている。場合により看護師より説明あり。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて役割を持って頂いたり、塗り絵等の趣味活動を行って頂けるようにしている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援委員会を設け出来る限りの希望を叶えるよう努めてきたが、現在はコロナ禍の為外出を控えて頂いている状況。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで現金のお預かりをしていない。入居時にご希望のある利用者には所持して頂く事もある。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば都度お電話可能。月に1回程度娘様にお手紙を書いて頂いているご利用者様がいらっしゃる。ご本人様の希望であり、ケアプランにも記載してある。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境美化委員会を設け、快適な環境作りに努めている。また畑、お花委員会を設け、お花や野菜により季節を感じて頂けるようにしている。フロア内でも季節が分かるよう、季節に応じた飾り物をしている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の相性を考慮し話がしやすいようなお席にしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム作り付けではなく家から家具を持ってきて頂いている為使い慣れた物となっているのではないか。仏様の壁掛けのようなものを持ち込まれている方もいる。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りに赤いテープを貼り手をつく所が分かり易いようにはしている。		